

平成 28 年度 第 1 回みんなで支える長野地域会議

- [開催日時] 平成 28 年 11 月 8 日(金)
[開催場所] 現地調査：飯綱町、信濃町
会 議：長野合同庁舎 501 会議室
[出席委員] 7 名
[事務局] 7 名
[現地調査]

1 みんなで支える里山整備事業実施地（飯綱町福井団地）

- ・所有区分は（委員）
私有林（事務局）
- ・野生動物はいるのか。（委員）
ニホンジカ等がいる。（事務局）
- ・カシノナガキクイムシの被害は発生しているのか。（委員）
以前は発生していたが、現在は収束している。（事務局）

2 森林の里親促進事業実施地（飯綱町霊仙寺湖）

- ・桂山において、ヤマモミジばかりを植栽している理由は。（委員）
里親の意向（飯綱町）
- ・列状間伐したカラマツ林の下層にヤマモミジを植栽しても大きく育たない。（委員）
- ・スギなどの経済林は造成しないのか。（委員）
霊仙寺湖など町内随一の観光エリアで、この森林にノルディック認定コースがあるため、観光振興を目的とした森林を目指している。（飯綱町）

3 更新伐実施地（信濃町富濃）

- ・人工林と天然林の比率は。
50%、50%です。（森林組合）
- ・萌芽しているナラは芽かきをしないのか。（委員）
所有者から要望があれば対応するが、予定はない。（森林組合）
- ・芽かきなどお金をかける必要はないと思う。（委員）
- ・広葉樹においてもパルプやエネルギー目的でなく、目的に対応した森林づくりが必要（委員）

4 地元産材活用促進の取組（信濃町古間）

- ・体育館のトレーニングルームを改装して木育ルームを作った。
野尻湖畔の樹齢 80 年のクリの木を使って滑り台を作った。
遊具は地元木工所で製作した。（信濃町）

[会議事項]

- 1 長野県森林づくり県民税活用事業の実績について（事務局）
質問なし

2 平成 28 年度長野地域森林長野県森林づくり県民税活用事業の実施状況について（事務局）

- ・信州フォレストコンダクター活動支援事業について、木材認証を受けることができる人材育成も盛り込んでほしい。（委員）
- ・フォレストコンダクターにも相談して対応していきたい。（事務局）

3 意見交換

- ・現在の森林税事業の搬出支援は地域の皆さんが搬出するような場合に対応するものと理解しているが、里山で搬出可能でありながら森林経営計画にいれることができない場所については公共造林を使えない。森林税を使って搬出間伐がもっと巾広にできるような仕組みを作ってほしい。そうすれば材を出せる区域が広がる。（委員）

税単独事業枠の拡大や、森林税事業以外による間伐木の搬出を支援の対象とできないか県庁に伝えていきたい。また、現在の税事業の搬出支援は県内で消費することが条件となっている。このことも含めて今後どうするか県庁に伝えていきたい。（事務局）

- ・当初、国の制度が行き届かないところを森林税でカバーすることが本来の趣旨だったと思うが、関野委員の意見のように少し幅広く対応できるようなシステムを考えたかどうか。（委員）

ご指摘のとおり当初は国の制度の隙間を埋めようと制度設計されたもの。

国の支援があっても対応できない場合があるので、御意見を県庁に伝えていきたい。（事務局）

- ・森林税が始まった当初にはCO₂削減がうたわれていたが、最近は抜け落ちているように感じる。森林税を継続するならCO₂削減についても必要ではないか。（委員）

森林整備がCO₂削減に効果があることは確立した議論だと思っており、森林税の継続についてそこを踏まえて議論していきたい。（事務局）

- ・全国植樹祭で知事が森林県から林業県へすると言っていたが、植えて育てる方向へ持っていく必要があるのでは。（委員）

今年の全国植樹祭の目的はまさにそのことで、今まで育ててきた木を伐って出し、次に木を植えていく。このサイクルが回り出す。その時代を画する植樹祭だと認識している。

いままで森林税は手遅れの間伐をやっていこうと進めてきたが、これからの林政は木を使い、植えていくことに、より支援が必要だと思っている。（事務局）

- ・事業によっては国庫補助の方が使い勝手が良いとの話があったが、使い勝手が悪いところを森林税の趣旨に沿って使い勝手が良いように変える努力も必要だと思う。（委員）

いろいろな意見を出していただき、私たちもその意見を踏まえ、改善点を県庁に出していきたい。（事務局）

- ・大北森林組合の補助金不正受給について、関わった県職員はそれなりに責任を取らされた。しかし、大北森林組合の役員は補償など何もしていない。大北森林組合理事の責任について県で方向を示してほしい。(委員)

御意見として受け止めさせていただきます。(委員)

- ・信濃町の木育ルームについて、今までこの発想が無かった。学校で児童や生徒が活動することは支援されていたが、生まれたときから木と関わるため生後4か月の赤ちゃんに木のおもちゃを贈るのはすごく良い発想だと思う。また木育ルームを自由に使えることも良い。市町村に対し、このような使い方の情報提供をすれば取組が広がるのでは。長野県は森林保育など新しいことも始めており、林業県として広い視野にたって取り組めないか。(委員)

各市町村に森林づくり推進支援金として支援させていただいており、各市町村は創意工夫して取り組んでいる。これから来年度の計画をたてることとなるので情報提供してより良いものにしていきたい。(事務局)

- ・木製ベンチなど分かりやすいものに森林税が還元されたら、みなさんの理解が深まると思う。(委員)

御意見を県庁に伝えていきたい。(事務局)